

【11】

テーマ「居場所づくり」

タイトル「ふつう、目玉焼きには、『しょうゆ』でしょう!!」

【学習のポイント】

- ・保護者が多様性を認めていくことで、子どもはイジメに向かいにくくなる。
- ・保護者が安心して活動できることが子どもに良い影響を与える。

【キーワード】

- ・多様性、居場所づくり

【学習のすすめ方（70分）】

流れ	分	主 な 活 動	主 な 発 問	留 意 点
導入	5	1 学習のポイントと話合いのルールの確認をする。 (参加・協力・守秘)	参加：進んで参加、パスもOK。 協力：みんなで協力、答えを導き出す。 守秘：出てきた個人情報、置いて帰る。	◆朗読劇に出演してもら う保護者をあらかじめ 決めておき、劇の準備を してもらう (ナレーター、母、父、 ゆうた、おじいちゃん または、おばあちゃん) ◆「参加・協力・守秘」を 板書しておく
	5	2 アイスブレイク をする。 ・5人グループにな り、自己紹介をす る。	■この頃気になったニュースを紹 介しながら自己紹介をしまし ょう。	
	5	・朗読劇「目玉焼き」 を行う（鑑賞す る）。 ・研修における課題 の確認をする。	■これから参加者の皆さんに朗読 劇してもらいます。それでは、 出演される皆さんは前に出てく ださい。 ■朗読劇に出演してくださった皆 さん、ありがとうございました。 ご自分の席に戻りましょう。	◆ファシリテーター（補 助）は朗読劇に沿って、 以下のように板書する。
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「目玉焼き」にかけるものは？ 母：しょうゆ 父：塩 ゆうた：マヨネーズ おじいちゃん（おばあちゃん） ：目玉焼きはきらい</p> </div>
				<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%;"> <p>劇に出てきた家族でも、目玉焼きにかけるものは様々でしたね。 私たちが「ふつうは〇〇だよね。」というように「ふつう」という言葉を用いて様々 な判断をしていることがよくあります。 今日は、私たちが日頃使っている「ふつう」について、人によってとらえ方が違う 場合があるということを考えてみたいと思います。</p> </div>

<p>展開</p>	<p>3 5</p>	<p>3 事例を読んで話し合い、ワークシートに記入する。</p>	<p>■ 1～5の事例を読んで、気になることを話し合います。(1事例7分程度、ワークシート別添)事例を読み、気になったこと、考えたことを模造紙に記入しましょう。出てきた意見を記録者が記入しましょう。意見をまとめる必要はありません。</p>	<p>◆ 模造紙 (A1に拡大したもの) をグループに配付する ◆ 記録者を決める ◆ 一つの事例を考えたら、次の事例について考えるよう促す ◆ 記録者は1つの事例ごとに交代する ◆ 7分経過したらチャイムを鳴らす等のアナウンスをする ◆ 「共感シール」等配付する</p>
<p>まとめ</p>	<p>5</p>	<p>4 ギャラリーウォークをする。</p> <p>5 元のグループに戻って話し合う。</p>	<p>■ 他のグループのワークシートを見て回しましょう。 ■ 「共感した」考えにはシールを貼りましょう。</p> <p>■ この活動を通して気付いたことを話し合しましょう。</p>	<p>◆ まとめる必要のないことを確認する ◆ アンケートを配布しておく</p>
<p>まとめ</p>	<p>5</p>	<p>6 ファシリテーターがまとめる。</p>	<p>○ 「ふつつ」という言葉の背景を考えていくことで、価値観を多面的に捉えることができる。 ○ 価値観を多面的に捉えていく保護者の姿勢が子どもに影響を与える。多様性を認められる子どもは「いじめ」に向かいにくくなる。 ○ 保護者同士の意思疎通や気付きは、安全や安心につながる。それは、子どもたちにもつながる。等</p>	<p>◆ 模造紙を掲示 (補助者が参加者に持って立ってもらい) し、ファシリテーターがキーワード等を紹介する ◆ シールが多く貼られた内容も紹介する</p>
<p>まとめ</p>	<p>5</p>	<p>7 ふりかえりシートに記入する。</p>	<p>■ 振り返りシートを記入しましょう。</p>	<p>◆ 参考資料を配付する ・ ストレッサー ・ アンガーマネジメント等</p>

朗読劇 「目玉焼き」

ナレーター これはある家族の日曜日の朝のひとコマです。テレビでは、たまごを使った料理番組が放送されています。

母 「最近はずたまご料理もおしゃれになったわねえ。でも、私は目玉焼きが一番好きだわ。焼きたてに『しょうゆ』をかけて。おいしそう！！」

父 「俺は・・・、ホントは目玉焼きには『塩』がいいんだけどな」

母 「ええ！！知らなかった」

父 「だって、勝手に『しょうゆ』がかかっているから、まあいいかと思って」

母 「ふつう、目玉焼きには『しょうゆ』でしょ！！」

父 「そうやって怒ると思って黙ってたんだよ。俺の普通は『塩』なんだ！」

ナレーター 「しょうゆ」か「塩」かをめぐって両親が険悪なムードになっているところに、ゆうた君が起きてきました。

ゆうた 「朝からうるさいなあ」

母 「ねえ。お父さんが目玉焼きに勝手に『しょうゆ』をかけるお母さんが悪いって言うんだけど、普通『しょうゆ』よね？」

父 「悪いなんて言ってないだろ。ホントは『塩』がいいって言うだけだろ」

母 「ゆうたはもちろん『しょうゆ』よね？」

ゆうた 「俺は『しょうゆ』や『塩』より『マヨネーズ』がいい。」

母、父 「ええ??？」

ナレーター すると隣の部屋にいたおじいちゃん（おばあちゃん）が出てきて…

おじいちゃん 「今まで黙って食べていたが・・・、わしゃ、目玉焼きが嫌いなんじゃ」

3人 「ええ!？」

ナレーター この目玉焼き論争、おじいちゃん（おばあちゃん）のカミングアウトで、終結しました。「普通」ってなんででしょう？ 誰が決めるのでしょうか？
今から一緒に考えてみましょう。

【学習資料】

<ワークシート>

「ふつう、目玉焼きには、『しょうゆ』でしょう!!」

() グループ

事 例	気になったこと・考えたこと
<p>1 A君は運動会の日朝、コンビニで弁当を買って登校しました。その様子を見ていたある保護者が私のところにやってきて「ふつうさぁ…運動会の時くらい弁当を持たせるものだよね…」と話をしてきました。</p>	
<p>2 参観日。子どもたちは思い思いの「将来の夢」について発表しました。授業後の学級懇談会で、となりの保護者が「ふつうに高校まで出て、ふつうに就職してくれたら、いいんだけど…」と話をしてきました。</p>	
<p>3 避難所で生活をされている方と話をしていたら、「自宅はかなり壊れているけど、ここでは足りない物が多いので何度か家に戻っているんです…。一日も早くふつうの生活に戻りたいと思っていますが…」と話された後、言葉が詰まり、会話が続かなくなりました。</p>	
<p>4 友だちのお母さんから。「今度の担任ってどう？前の学校で学級崩壊しちゃって大変だったらしいけど、大丈夫かな…。ふつうさぁ…そういう先生をいきなり担任に充てるものなのかしら…」といったメールが回ってきました。</p>	
<p>5 休日、具材をしっかりと買い込んで、腕によりを掛けてラーメンを作り家族に振る舞いました。あまりにも息子の反応がないので、「どうだ、うまいか？」と聞くと、「ふつうにうまいで!」と返してきただけでそれ以上の反応はなく少し寂しくなりました。</p>	

気づいたことを書きましょう。

いじめが起きにくい学校風土・学級風土

いじめを減らしていく上で成果を上げているのが、「いじめを生まない」という未然防止の発想に立った取組です。そうした未然防止の取組の一つに、多くの児童生徒がいじめの被害のみならず、加害にも巻き込まれている事実立ち、ささいな行為が深刻ないじめへと簡単に燃え広がらない潤いに満ちた風土をつくりだす、“居場所づくり”の発想の取組があります。

“どんなささいな予兆も見逃さず対処する”という早期発見・早期対応の姿勢も大切ですが、いじめ行為の多くは「目に見えにくい」こと、被害者も加害者も短期間に大きく入れ替わることを考えれば、そこに限界があるのも事実です。そこで、いじめの背景にはストレスやその原因となる要因（ストレス）等が存在することに着目し、それらの改善を図ることで、きっかけとなるトラブルを減らしたり、エスカレートを防いだりすることで未然防止を図ります。

いじめ加害に影響する3 要因

児童生徒をいじめ加害に向かわせる要因として大きいのは、「友人ストレス」「競争的価値観」「不機嫌怒りストレス」の三つ。それらの要因が高まると、加害に向かいやすくなる（リスクが高まる）。

ただし、そうしたリスク要因が実際にいじめ加害に結びつくには、偶発的な要因が必要。幾らストレスが高く、それを発散したいと感じたとしても、適当な相手（自分が勝てそうで、都合の良い口実・きっかけがある等）と、適当な方法（自分にとっては簡単で、大人に見つかりにくく、見つかってもし言い逃れができそう等）がなければ、加害行為には及ばない。

とは言え、三つの要因の改善が、いじめ発生のリスクを減らすことは間違いないと考えられます。

“居場所づくり”でいじめを減らす

誰もが巻き込まれるいじめの場合、一部の児童生徒を想定した取組よりも全員を対象とした取組が合理的かつ効果的です。児童生徒が安心できる自己存在感や充実感を感じられる、そんな場所を提供できる授業づくりや集団づくりが、未然防止になるのです。

三つの要因のうち、(過度な)「競争的価値観」や「不機嫌怒りストレス」を緩和する上で効果的と考えられるのが、授業や行事の中で、どの児童生徒も落ち着ける場所をつくりだす“居場所づくり”の考え方です。「競争的価値観」や「不機嫌怒りストレス」は、学校の中だけで生み出されているわけではありません。家庭や社会の影響の方が強い場合も少なくないでしょう。しかし、授業中に嘲笑されたり、行事の際にからかわれたりする、といったことが放置されていないでしょうか？授業についていけなかったり、行事に参加しないで別なことをしていたりする児童生徒はいないでしょうか？そこから見直すことが求められています。